

農林水産・食品分野のオープンイノベーション

「知」の 集積と活用 の場

ご挨拶

「知」の集積と活用[®]の場は、農林水産・食品分野に異分野の知識・技術・アイデアを導入し、産学連携でのオープンイノベーションを目指す取組であり、その活動母体として平成28年に農林漁業者、民間企業、大学、公的研究機関など多様な主体が参画する「知」の集積と活用[®]産学官連携協議会（以下「協議会」という。）が立ち上がりました。本年度で10年目を迎えておりますが、会員数は5,000を超え、約180の研究開発プラットフォームが設立され、全国各地で活発な活動が展開されています。

協議会では令和3年度からの5年間を活動第二期と位置づけ、研究成果の社会実装を促進するため、協議会会員による事業化・商品化等の活動を支援してまいりました。

協議会会員の皆様によるこれまでの活動の成果は、新品種・新ブランドの創出、養殖産業の振興、新たな農業用資材や機能性食品の開発、JAS規格等の制定、近年増加する病害虫に対応した農産物の栽培マニュアルの公開など、様々な形で広く社会に還元されてきました。

現在、農林水産・食品分野は様々な課題が山積しており、本協議会が有する社会課題の解決に有用なイノベーションの創出や社会実装を促進する取組がますます重要となっております。また国においては本年4月に閣議決定された新たな食料・農業・農村基本計画において「知」の集積と活用[®]の機能を強化し、スタートアップや農業者、大学を含む産学官の連携による研究開発・社会実装を加速することが位置付けられています。

本協議会では、こうした昨今の情勢を踏まえつつ、今年度は活動第二期の最終年度にあたることから、これまでの活動や協議会のあり方を振り返り、第三期に向けた方針の検討を進めてまいります。今後とも協議会が国の掲げる重要な政策課題の解決に資する技術シーズの社会実装を推進する場となるよう努めてまいりますので、会員の皆様のご理解とご支援をお願い申し上げますとともに、新たな会員の参画を心よりお待ちしております。

令和7年7月

「知」の集積と活用[®] 産学官連携協議会
会長 松山 旭



目次 contents



「知」の集積と活用の場 概要図	1
産学官連携協議会	3
研究開発プラットフォーム	5
研究コンソーシアム	6
「知」の集積と活用の場で出来ること	7
研究成果の社会実装支援	9
取組み成果の対外的な PR	10
研究開発プラットフォームの成果事例	11



知の集積と活用

産学官連携の新しいかたち

産学官連携協議会

「知」の集積と活用は、オランダのフードバレー（産学官が連携したイノベーション創出の取組）を参考に、我が国における新たな農林水産・食品分野のオープンイノベーション創出の仕組みとして、平成 28 年 4 月から活動を開始しました。





YouTubeでも！
協議会概要を3分で説明

③ 研究コンソーシアム (リサーチプロジェクト)

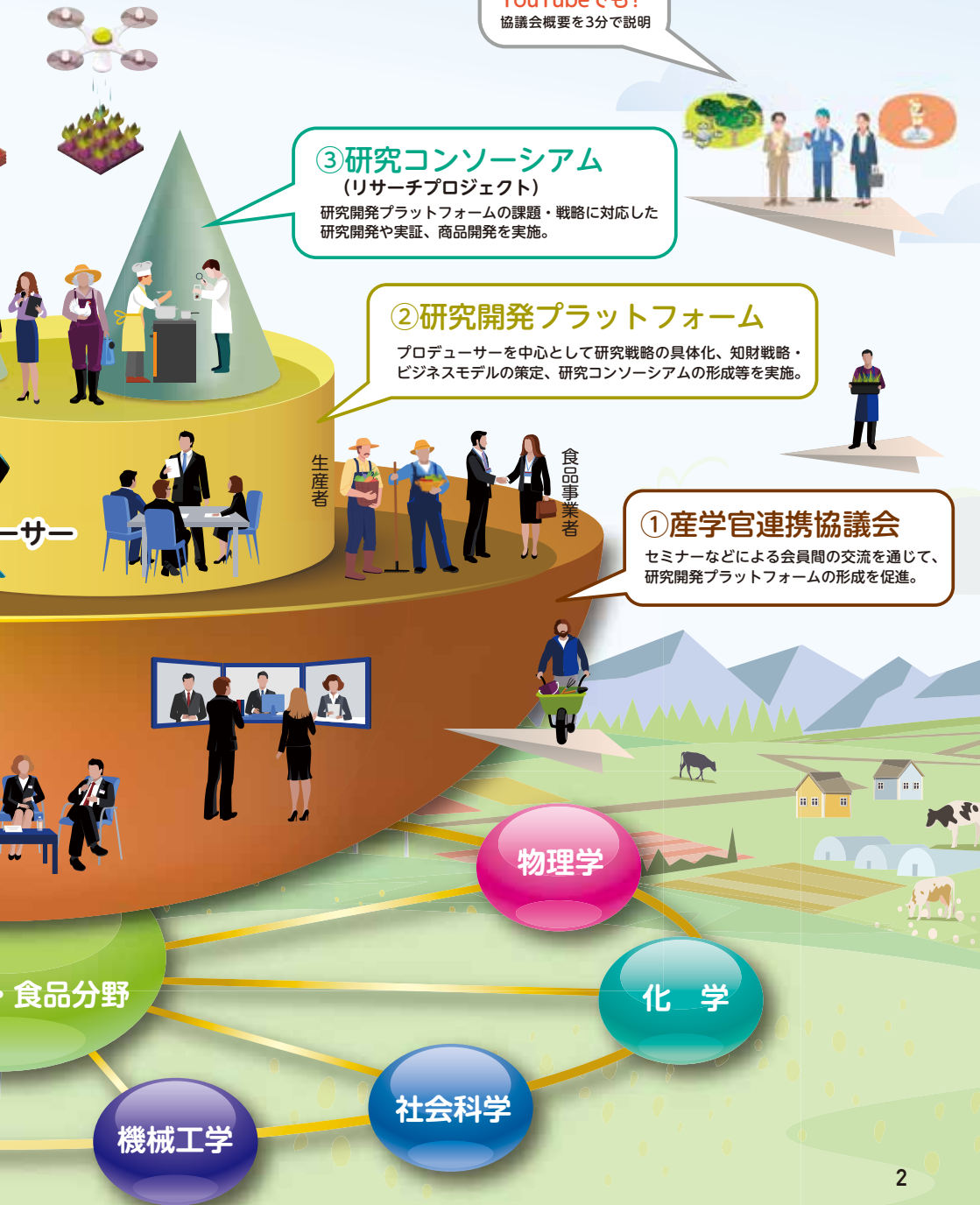
研究開発プラットフォームの課題・戦略に対応した
研究開発や実証、商品開発を実施。

② 研究開発プラットフォーム

プロデューサーを中心として研究戦略の具体化、知財戦略・
ビジネスモデルの策定、研究コンソーシアムの形成等を実施。

① 産学官連携協議会

セミナーなどによる会員間の交流を通じて、
研究開発プラットフォームの形成を促進。



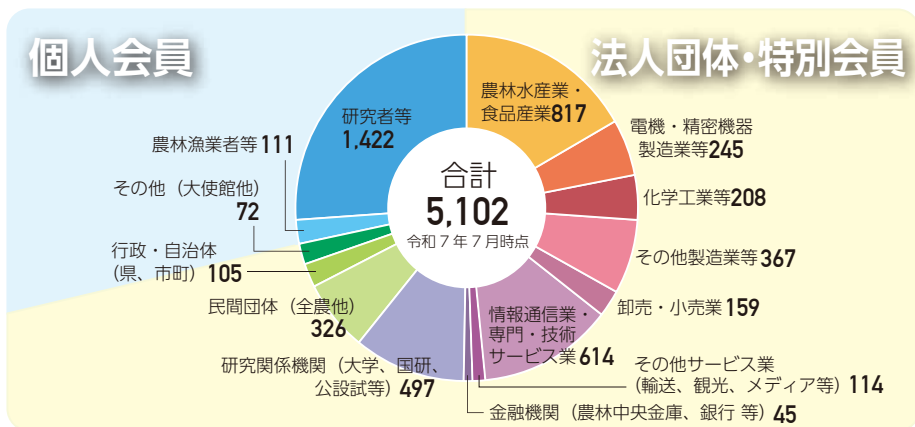
① 産学官連携協議会

「産学官連携協議会」は、会員相互の情報交換を通じ、研究開発プラットフォーム（→P5）の形成を促進する、三層構造の基礎となる組織です。

大学、企業、国研、自治体、民間団体、生産者等、産学官の幅広い組織・人材が会員として入会しており、令和7年度には協議会の会員数は5,000を超えました。

多くの会員の「知」が“集積”する協議会のポテンシャルが遺憾なく“活用”されるように、協議会事務局では各種セミナーやポスターセッションといった交流の場となるイベントを多数企画し、多様なニーズとシーズのマッチングを促進、さらには研究開発プラットフォームの形成へと繋げています。

会員構成



協議会の活動





会員・プラットフォームの連携・交流（ポスターセッション）

会員、研究開発プラットフォーム、研究コンソーシアム相互の交流・連携の促進を目的として、協議会では例年ポスターセッションを開催しています。各出展者の活動内容や研究成果、商品化事例等をポスター形式で発表し、協議会内外に広く紹介する場となっております。事業化に向けた更なる連携作りを期待することができます。



成果のPR

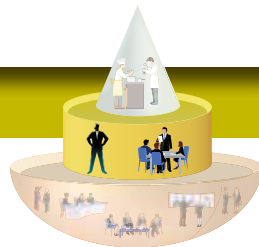


「知」の集積と活用から生まれた成果を広く認知してもらうため、様々な機会を創出しています。

アグリビジネス創出フェア（農林水産省主催）には、数多くのプラットフォームやコンソーシアムが参加し、ブースにおける展示、セミナーの実施により、広く活動のPRを行う場となっています。

また、成果の事業化支援の取組の一環として、JFフードサービスパートナーズ商談会に出展し、外食産業や小売業等のバイヤーに取組み成果を提案・商談する機会を設けています。その他、農林水産省または他省庁等の事業とも連携し、イベント等で成果のPRを行っています。

②研究開発プラットフォーム



「研究開発プラットフォーム」は、同じ目的を有する協議会会員が集まって形成された研究グループで、プロデューサーを中心に研究課題の具体化、知財戦略・ビジネスモデル等の策定を行います。また、プラットフォーム構成員の拡充・構成員同士の連携促進、さらには研究コンソーシアムの形成のために、勉強会やセミナーを開催するプラットフォームも多く存在します。

プラットフォームの研究戦略策定やビジネス構想立案を支援するため、産学官連携協議会では、プロデューサーが集まる新事業創出会議や各種セミナーを通じて、プラットフォームの運営ノウハウや商品化・事業化の成功事例を紹介しています。

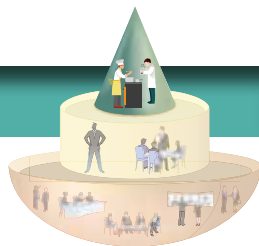
5つの産業領域

協議会における研究開発の方向性を明示し、研究開発プラットフォームの形成やプラットフォーム間の連携を促すため、以下の5つの産業領域を用いて、プラットフォームを分類しています。商品化・事業化を推し進めるため、研究ではなく産業を意識した分類となっています。

カテゴリー	主な取組の例
①スマート農林水産業及びスマートフードチェーン 37 プラットフォーム	<ul style="list-style-type: none">・ビッグデータ・AI等を活用したスマート育種技術・データに基づく家畜改良や飼養管理の高度化・生産から消費におけるスマート技術の開発・普及
②おいしくて健康によい食づくり (産業基盤の強化に向けた連携促進) 31 プラットフォーム	<ul style="list-style-type: none">・介護食品の開発やスマートミールの普及・食を通じた健康管理を支援するサービス・機能性食品の開発や健康維持・増進に関する科学的エビデンスの獲得・蓄積
③持続可能な農林水産業・食品産業 (地球規模・地域の課題解決) 77 プラットフォーム	<ul style="list-style-type: none">・気候変動に対応した品種や栽培技術、農業資材の開発・化学農薬や肥料の使用を低減する生産技術の開発・地域の課題解決や産業創出
④農林水産物・食品の輸出促進、農林水産・食品技術の海外展開・国際共創 14 プラットフォーム	<ul style="list-style-type: none">・海外ニーズに応える新商品の開発・農産物の鮮度保持技術の開発・アジアモンスーン地域向けの植物工場システムの開発
⑤バイオテクノロジーを活用した新事業創出 19 プラットフォーム	<ul style="list-style-type: none">・代替肉の研究開発等のフードテック・バイオマス発電やその排熱利用・ゲノム編集技術の活用・食品加工過程の副産物・廃棄物の利用促進

プラットフォーム数は令和7年8月時点

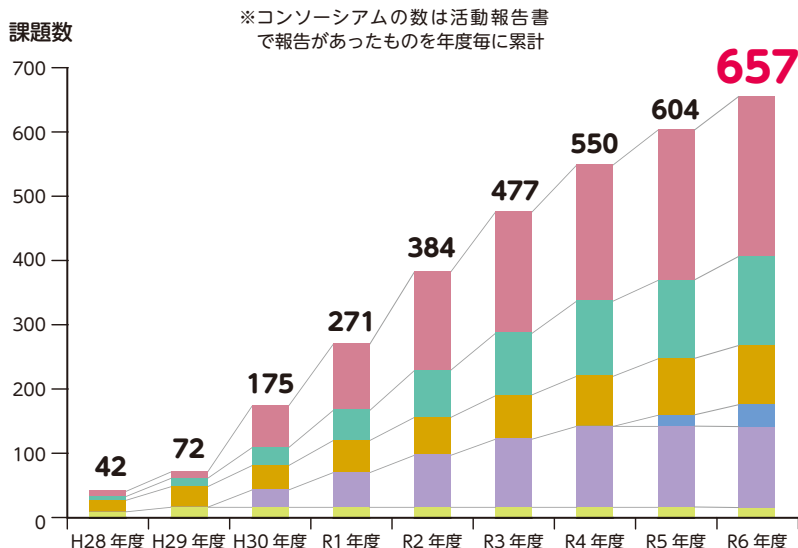
③研究コンソーシアム



「研究コンソーシアム」は、プラットフォーム内に形成された小規模グループで、研究代表者を中心に共同研究プロジェクトを実施する、技術開発や商品化の実働部隊です。

各研究開発プラットフォームに形成されたコンソーシアムの検討フェーズは、基礎研究から商品開発まで多岐に渡ります。活動原資も様々で、「知」の集積と利用の場事業（オープンイノベーション研究・実用化推進事業）、農林水産省をはじめとする省庁や自治体の補助等を活用したコンソーシアムや、民間企業の自己資金等を活用したコンソーシアムも増加しています。

外部資金等の活用状況



- 自己資金等
 - 他省庁・自治体等
 - その他農林水産省
 - オープンイノベーション研究・実用化推進事業(※)
 - イノベーション創出強化研究推進事業(※)
 - 研究開発モデル事業
- (※)ステージ移行採択課題も含む

「知」の集積と活用の中で出来ること

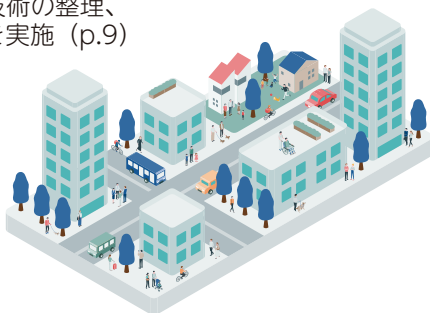
1. 社会実装に向けた仲間を集める

- ・一機関では研究開発および社会実装が難しい課題にもプラットフォーム、コンソーシアムを組むことで取り組むことが可能
- ・プラットフォーム、コンソーシアムの規約を基に各機関との協業も自由度が高く実施可能



2. 社会実装に向けた支援を受ける

- ・全国に配置されたコーディネーターによる、民間企業・研究機関とのマッチング、研究開発資金の紹介等を支援 (p.8)
- ・革新的な技術シーズを創出し、研究成果の社会実装を加速するため、産学官が連携して取り組む基礎研究及び実用化研究を支援 (p.8)
- ・新たなビジネス創出のため、SBIR制度のもと、革新的な研究開発とその事業化を目指して取り組むスタートアップ・中小企業等を支援 (p.8)
- ・専門支援者、伴走支援者による、技術の整理、事業計画の策定など伴走的な支援を実施 (p.9)



3. 活動の成果を発信する

- ・ポスターセッション、外部機関と連携したイベントを通じた成果物のPR
- ・成果事例として協議会HPにおいても発信



全国コーディネーター配置

農林水産・食品関連分野の研究に関わる専門家が、最新のニーズ、シーズを収集しており、マッチング支援や研究資金の紹介等を行っています。

問い合わせ先 農林水産・食品産業分野 産学連携支援サイト
<https://agri-renkei.jp/>

オープンイノベーション研究・実用化推進事業（提案公募型研究事業）

国の重要政策の推進や現場課題の解決に資する研究成果を創出し、社会実装を加速するため、産学官が連携して取り組む基礎研究及び実用化研究を支援します。

基礎研究ステージ

農林水産・食品分野での社会実装を目的とした革新的な研究シーズを創出する基礎研究

開発研究ステージ

基礎研究ステージ等の研究成果を社会実装するための実用化研究

問い合わせ先 生物系特定産業技術研究支援センター
<https://www.naro.go.jp/laboratory/brain/index.html>

スタートアップへの総合的支援（提案公募型研究事業）

革新的な研究開発とその事業化を目指して取り組むスタートアップ・中小企業等を支援します。

フェーズ0

技術シーズ創出

フェーズ1

実現可能性調査や概念実証

フェーズ2

事業化に向けた試作品作成や技術改良、事業計画策定等の準備

事業化準備フェーズ

プロダクトマーケットフィットに向けた実証・技術改良等

問い合わせ先 生物系特定産業技術研究支援センター
<https://www.naro.go.jp/laboratory/brain/index.html>

研究成果の社会実装支援

革新的な技術開発や開発された技術の社会実装を目指す協議会会員、研究開発プラットフォーム等の支援を強化しております。

特に社会実装に向けた伴走的な支援事業を令和4年度から実施しております。支援対象者の保有する技術や研究内容に応じて適切な伴走支援チームを配置し、技術の整理、事業計画の策定、マッチング支援等を実施いたします。伴走支援チームのみならず外部連携機関との連携を通じて、様々な検討課題に対して柔軟に対応可能な体制を整えております。

社会実装伴走支援事業 支援内容（例）

- 伴走支援事業では、応募者が目指す姿に向けた検討状況・課題感・支援に対する要望を適切に把握しながら、状況に応じたサポートを行います。
- 支援の具体例として、専門家によるメンタリング、連携先とのマッチング・商談、市場調査・分析、資料作成などの支援が可能です。



専門家による助言

- 特定の業界・技術など専門領域の有識者による助言提供
- ※ 専門領域によって専門家が不在／助言内容に限られる場合もある



マッチング・商談

- サプライチェーン上の連携先、その他協業先との接点紹介
- 経営者候補人材・組織、資金調達先（金融機関・VC等）、知財専門家の紹介



市場調査・分析

- 特定の業界、技術に関する市場動向・技術動向・国策動向等の調査を通じた情報提供
- 情報提供を通じた戦略立案・アイデア出し



資料作成

- 顧客獲得に向けた提案書、ピッチ・商談に向けた資料作成支援
- 内部検討事項の棚卸し、可視化・言語化の支援



ピッチ・資金調達

- 展示会やピッチ等対外的な発言・認知拡大に向けた発信機会の提供
- 資金調達に係る情報提供、申請書作成支援



海外展開

- 海外展開に関する情報提供（進出先国・地域の動向調査）
- 戦略策定、ステークホルダー等との接点紹介

これまでに伴走支援を受けたプロデューサーからの声



「技術シーズはあるが何故か事業化検討が進まない状態から、コーディネーターの助言を通じて課題が明確になった」

「事業化検討の転換点・ブレイクスルーとなった」

「有識者・コーディネーターとの議論を通じて、プラットフォーム単独では決して生まれなかったビジネスアイデアが生まれた」

「自力ではリーチし難い顧客候補先を紹介してもらうことでネットワークが広がり、実際にいくつかの商談が成立した」

取組み成果の対外的なPR

成果事例集の作成と公開

研究開発プラットフォームでの社会実装した事例をまとめております。協議会ホームページでの公開に加えて、イベント等で配布し成果のPRを行っております。

産学官連携協議会
HPで公開中



動画コンテンツ

研究開発プラットフォーム内での取組みや成果などをインタビュー等でご紹介しております。

農林水産省公式
YouTubeで公開中



水産増養殖産業イノベーション創出プラットフォーム
(陸上養殖による輸出競争力を持つ新たな国産ブランド魚の開発コンソーシアム)

ポスター等の作成

取組みや成果事例を紹介するポスターやパンフレット等を作成し、農林水産省内での掲示、様々なイベント等での掲示・配布を行っております。その他、雑誌・新聞記事への掲載等、普及拡大に向けて、様々なコンテンツを用いてPRしております。



研究開発プラットフォームの成果事例

Society5.0におけるファームコンプレックス 研究開発プラットフォーム

海外展開

プロデューサー：吉田 重信 氏

施設型第一次産業の技術革新と、データベースを統合活用する高度な情報の連携による新ビジネスの創出を推進しています。

2016年度より石垣島で開始された「アジアモンスーンPFSコンソーシアム」の高温多湿地域向け植物工場の研究では、コンソーシアムメンバーの有志によりジャパンプレミアムベジタブル株式会社を設立し研究成果の社会実装に取り組んでいます。

ジャパンプレミアムベジタブル株式会社は「スマート農業技術活用促進法」開発供給実施計画の認定を受けるとともに、「スマート生産方式SOP作成研究」に採択され沖縄、長野でイチゴの周年栽培実証試験を開始しました。

(お問い合わせ)

ジャパンプレミアムベジタブル株式会社

Mail : yoshida.shigenobu.ys@jpveg.co.jp



ICTを活用した畜産生産システム 研究開発プラットフォーム

スマート

プロデューサー：池口 厚男 氏

大学、畜産農家やIT企業など、様々な構成員が連携して、持続可能な経営と生産性の向上を目指して、ICT、ビッグデータの利活用に取り組んでいます。

搾乳ロボット、ふん尿出口ロボット、自動敷料散布機等の畜舎内作業の自動化、画像により牛の位置を検知して局所環境を制御する次世代閉鎖型牛舎システムにより労働生産性の向上と乳量増加を実現しました。画像処理により非接触で豚の体重を推定する「デジタル目録」、自律走行型死鶏発見ロボット「Robococco」、畜舎内空気清浄システム、悪臭拡散防止システムなどの畜産向けICT製品が上市されています。

(お問い合わせ)

宇都宮大学農学部農業環境工学科

Mail : ikeguchi@cc.utsunomiya-u.ac.jp

TEL : 028-649-5483



母猪体可視化システム (any-condition)



次世代閉鎖型牛舎システム



デジタル目録

「熱中症予防対策商品による地域産業創出」 研究開発プラットフォーム

おいしい

プロデューサー：永野 武史 氏

農業、加工食品産業による地域産業創出に向け、大学、地域（自治体、地域金融機関）、企業がまとまり、農産物が持つ“社会課題を解決する価値”を活かした商品開発および販売によるビジネスモデルの研究を推進しています。

これまで、会員メンバーの研究成果となる、熱中症予防等に効果のあるハッサク果皮に含まれる機能性成分「オーラプテン」の加工食品向け原料としての商品化に取り組み、その商品の社会への普及を推進しています。今後も、その社会実装に向けた活動を進め、地域の農業生産者から加工事業者、販売事業者を巻き込んだ地域経済活性化モデルとしての確立を目指します。

(同取り組みついで：ハッサクプロジェクト <https://hassaku-pj.jp/>)



ハッサクプロジェクトHP

(お問い合わせ)

TOPPAN株式会社

Mail: takeshi_1.nagano@toppan.co.jp

もしくは上記ホームページ問合せへ



さんりく養殖産業化プラットフォーム

持続可能

代表プロデューサー：平井 俊朗 氏

地域の主幹産業である水産業に新たな業態としての給餌養殖を並立させることによる産業基盤強化や地域振興を目指し、志を共有する産官学及び異分野の組織・人材との交流や学習の場の運営と研究開発の主体となるコンソーシアムの形成を進めている。

既存のコンソーシアムの活動により、サクラマス及びギンザケの種苗生産・育種・海面養殖研究を進め、県から釜石湾内に区画漁業権を取得し、令和4年からサクラマス養殖事業を開始した。令和5年からはギンザケ養殖も開始し、ゼロから総額5.5億円(令和7年)までに至る養殖サーモンの生産額を創出している。さらに、釜石市内飲食店と連携したサクラマスフェアや大学学食とコラボしたPR活動により、地域ブランド魚創出の取り組みを展開中である。



釜石湾内のサーモン養殖施設



サクラマスの水揚げ



フェアで提供した
地元開放店のサクラマス丼



学生食堂で提供した
サクラマスフライ

(お問い合わせ)

岩手大学釜石キャンパス

Mail: tanno@iwate-u.ac.jp

TEL: 0193-55-5691

産学官連携の新しいかたち

知の集積と活用の場

産学官連携協議会

Field for Knowledge Integration and Innovation

会員募集中

